

ワークライフバランスについて

ワークライフバランスとは

ワークライフバランス (work-life balance)
= 「仕事と生活の調和」と訳されます。



個人においては、

1人ひとりが、やりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できることを目標にした考え方です。

企業においては、

社員が働きながらも仕事以外の責任や要望を果たせる環境を提供することにより、個人の能力を最大限に発揮し、会社に貢献してもらうことを目標にしています。

ワークライフバランスをめぐる官民の取組

平成19年12月

政府、地方公共団体、経済界、労働界の合意により、
「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」と
「仕事と生活の調和推進のための行動指針」が策定され、
企業でも様々な取組みが行われています。

企業における取組例

- ・午後7時以降原則残業禁止
- ・リフレッシュ休暇、バースデー休暇、人間ドック休暇の導入
- ・育児休業中能力アッププログラムの提供
- ・育児休業復帰時支援プログラムの作成 など

<参照>

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」

「仕事と生活の調和推進のための行動指針」

ワークライフバランスのメリット

＜個人のメリット＞

- ・仕事のやりがいが増える
- ・スキルアップのための勉強時間の確保
- ・生活習慣の改善
- ・心身のリフレッシュ
- ・プライベートの充実
- ・育児・介護の時間の確保
- ・ボランティアや地域活動への参加が可能
- ・結婚・出産後も仕事が続けられる

＜企業のメリット＞

- ・優秀な人材の確保と定着
- ・生産性向上
- ・社員の満足度・意欲向上
- ・会社への忠誠心が向上
- ・企業イメージのアップ
- ・残業時間短縮でコスト削減
- ・多様な個性を持つ社員確保
- ・新たな視点での事業展開
- ・社員の健康状態の改善
- ・長期的な視野での人材育成

企業におけるワークライフバランス

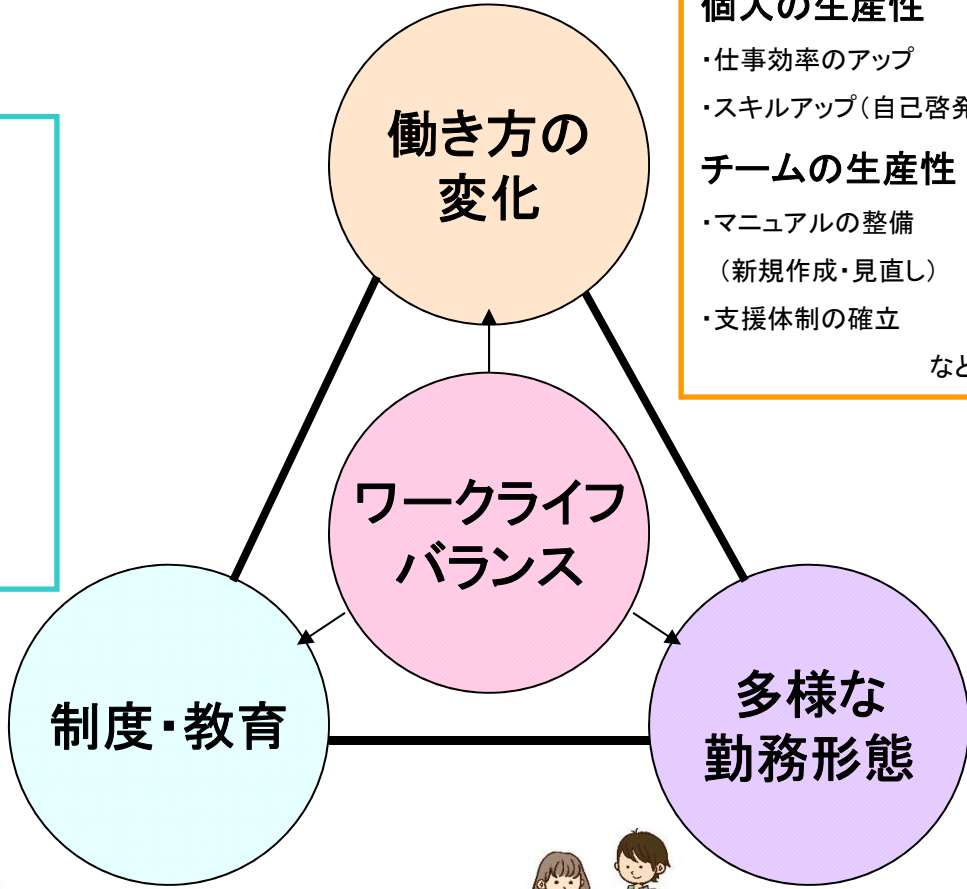
制度

- ・休暇・休業
- ・転勤サポート
- ・育児・介護サポート

教育

- ・キャリア開発
- ・セミナー
- ・情報提供

など



個人の生産性

- ・仕事効率のアップ
- ・スキルアップ(自己啓発)

チームの生産性

- ・マニュアルの整備
(新規作成・見直し)
- ・支援体制の確立

など



フルタイム社員

- ・フレックスタイム
- ・在宅勤務

パートタイム社員

- ・ワークシェア
- ・時短勤務

など



ワークライフバランス推進の流れ

①体制作り

(自社の規模や組織形態により、最適な方法で体制づくり)

- ・ 専門部署の設置、兼任体制(人事部門の担当者の任命など)
- ・ ワーキンググループ(社内労働者の有志など)

②課題・ニーズの把握

(実効性のある制度づくりに活かせる課題・ニーズ把握)

- ・ 社員へのアンケート、社員との意見交換会などで社員ニーズを把握
- ・ 自社の構成(男女比・年齢層・勤怠情報・各種制度の利用状況等)を点検し、課題を把握

③制度づくり・運用

(制度の運用を考慮し、自社にあった利用しやすい制度づくり)

- ・ 休暇・休業、労働時間、場所などの拡充
- ・ 社員のキャリアプランの支援
- ・ 制度内容説明会の実施, 社内報やPR冊子での周知など

④制度・運用の見直し

(利用状況に則した、制度や運用方法の見直し)

- ・ 制度の利用状況と効果の把握
- ・ 利用や効果に問題がある場合の原因究明

